

Japan Society of Sports Industry

日本スポーツ産業学会

学会ニュース

No. 131

日本スポーツ産業学会第33回大会開催される

第33回大会は、2024年7月6日(土)と7日(日)に、東洋大学赤羽台キャンパスにて行われました。参加申込者は総数183名（内有料参加者数：150名〔正会員：93名，学生会員：27名，非会員一般：10名，非会員学生：20名〕となりました。これもひとえに、大会実行委員会の皆様および関係者の方々の多大なるご尽力の賜物と感謝申し上げます。

尚、令和5年度の学会賞につきましては、『スポーツ産業学研究』第33巻第1号（2023年1月発行）から第4号（2023年10月発行）に掲載された原著論文11編，研究ノート9編の合計20編からの選考の結果，学会賞1編，奨励賞1編が選出されました。7月6日の総会後に同会場にて令和5年度学会賞授与式が行われ，尾山 基会長，平田竹男会長により賞状と副賞が授与されました。

○学会賞論文（副賞：10万円）

「スポーツ産業分析用産業連関表の作成」

川島 啓（釧路公立大学），庄子博人（同志社大学）共著 [原著論文]（第33巻第2号掲載）

○奨励賞論文（副賞：5万円）

「アスリートアドボカシーに対する人々の反応：献身性と適合性がもたらす影響」

小木曾 湧（東洋大学），舟橋弘晃（中京大学），間野義之（早稲田大学）共著 [原著論文]（第33巻第2号掲載）



左から尾山 基会長，舟橋弘晃氏，間野義之氏，小木曾 湧氏，川島 啓氏，庄子博人氏，平田竹男会長

第12回冬季学術集会開催予告

第12回冬季学術集会は、次の予定で開催されますので、ご準備のほどよろしくお願いたします。

○期 日：2025年2月11日（火・祝）

○主催校：福山平成大学

○会 場：福山大学社会連携推進センター（JR福山駅そば）



・第33回大会アイデアコンペ 受賞結果について	2
・第33回大会アイデアコンペ ポスター発表について	2
・第70回理事会報告	3
・第34回総会報告	4
・スポーツ産業アカデミー開催報告	20
・事務局より	21
・『スポーツ産業学研究』原稿募集	22

第33回大会アイデアコンペ 受賞結果について

「アイデアコンペ」には30件の応募があり、厳正な審査の結果選ばれた5件の発表者が当日プレゼンし、スポーツ庁関係者、学会会長、学会理事ほかの審査を経て、次のように中京大学 草薙ゼミナール 簡易型更衣テントチームのダブル受賞となりました。懇親会の冒頭に審査結果が発表され、同会場にて授与式が行われました。

○スポーツ庁長官賞

- 「簡易型更衣テント」による女性スポーツ実践者の増加を目指した簡易型更衣テントの販売方法の実践!!!

中京大学 草薙ゼミナール 簡易型更衣テントチーム (スポーツ科学部3回生)
(授与者:スポーツ庁審議官 橋場 健氏)

○日本スポーツ産業学会会長賞

- 「簡易型更衣テント」による女性スポーツ実践者の増加を目指した簡易型更衣テントの販売方法の実践!!!

売方法の実践!!!

中京大学 草薙ゼミナール 簡易型更衣テントチーム (スポーツ科学部3回生)
(授与者:尾山 基会長)



左から平田竹男会長, 前田汐帆理氏, 中野瑞希氏, 吉村なつ希氏, 草薙健太氏, 尾山 基会長

第33回大会アイデアコンペ ポスター発表について

(※印は当日の最終審査発表者)

- ※・「HOKAS-ごみスポで地球を推し活!-」
応募者:大阪経済大学人間科学部 藤本倫史ゼミ
- ・「持続可能な社会へ、既存スタジアムの改造～ECO STADIUM～」
応募者:同志社大学 二宮ゼミA
- ・「日本の地形を活かした半地下スタジアム～半地下スタジアム～」
応募者:同志社大学 二宮ゼミB
- ※・「夢を運ぶトレーラーで解決する物流の2024年問題」
応募者:同志社大学 二宮ゼミC
- ・「女性アスリートの価値向上」
応募者:帝京大学 塚本ゼミ②
- ※・「アップサイクルによる新たな社会貢献の提案」
応募者:帝京大学 塚本ゼミ③
- ※・「簡易型更衣テント」による女性スポーツ実践者の増加を目指した簡易型更衣テントの販売方法の実践!!!

実践者の増加を目指した簡易型更衣テントの販売方法の実践!!!

応募者:中京大学 草薙ゼミナール 簡易型更衣テントチーム

- ※・「スポーツで“フラワーロス”を減らそう」
応募者:中京大学 草薙ゼミナール フラワーロスチーム
- ・「ヲタクは世界を変えられる」
応募者:中京大学 草薙ゼミナール コスプレ×スポーツチーム
- ・「Kyudo to the world more!!!」
応募者:中京大学 草薙ゼミナール弓道愛好家チーム
- ・「Eco-Fitness」「運動が秘めるエネルギー生成の可能性」
応募者:中京大学 草薙ゼミナール Eco-Fitnessチーム
- ・「スポーツ現場が向き合うべき、海洋マイク

ロプラスチックごみ対策および廃棄人工芝のアップサイクルの取り組み事例」

応募者：武田裕迪

- 「価値創造を実現する新たなスポーツ・スポンサーシップ」

応募者：Sports Co-Creative

- 「風が吹き抜け、炎天下でも頭は日陰、雨でも頭はドライ」全天候型帽子熱遮帽の普及を！」

応募者：一般社団法人桃太郎スポーツクラブ

- 「総合型訪問スポーツクラブの設立」

応募者：角かずみ・田中充

- 「美容家電体験を通じた女性のスポーツ参加促進プロジェクト」

応募者：東 恭平

- 「リサイクルがつなぐ未来の子供たちとスポーツの架け橋」

応募者：麗澤大学大沼ゼミ

- 「運動習慣定着を目的としたe-スポーツ×リアルスポーツ～総合型フィットネスクラブを活用して～」

応募者：宇佐美知代

- 「運動部活動の地域移行を加速させるスポーツコミッションおよび廃校を活用した「スポーツコミュニティパーク」の設立」

応募者：帝京大学 川上ゼミナール

運営委員 石黒えみ, 井上俊也, 上田滋夢, 佐々木達也, 澤井和彦, 庄子博人, 田中弘一, 塚本拓也, 長井延裕, 新井野洋一, 藤本淳也

スポーツ庁 桃井謙祐

経済産業省 太田三音子

東洋大学 谷塚 哲

井上理事長による開会宣言後、尾山会長、平田会長、桃井氏、太田氏、谷塚氏より挨拶がなされた。

理事会の成立（出席者12人（含代理出席）、委任状提出者3人）が確認され、議事録署名人として武内理事、渡邊理事が指名された。

議題1) 第69回理事会議事録承認

第69回理事会議事録が確認され承認された。

議題2) 2023年度事業報告書について

井上理事長の指名により、資料に基づき2023年度事業報告が中村理事（運営委員長）からなされ、承認された。

議題3) 2023年度収支決算報告書について

井上理事長の指名により、資料に基づき2023年度収支決算報告が中村理事（運営委員長）からなされた。続いて監事より監査報告書に基づき監査の結果は妥当であると報告された。2023年度収支決算報告書は承認された。

議題4) 理事追加選任と次期運営委員会体制について

中村理事（運営委員長）から理事の追加に関する議事の追加が提案され、承認された。藤沢久美、杉本勇次、芦立訓、次原悦子の4名の理事の追加が提案され、承認された。次に間野理事を次期運営委員長とする新しい運営委員会体制が提案され、承認された。

議題5) 2024年度事業計画（修正案）

議題6) 2024年度収支予算書（修正案）

議題5と議題6は同時に提案された。井上理事長の指名により、資料に基づき2024年度事業計画と2024年度収支予算書の修正案が中村理事（運営委員長）から提案された。2024年度事業計画と

第70回理事会報告

日時：2024年7月6日(土)11時30分～12時50分

場所：東洋大学 赤羽台キャンパス

WELL-B3階 第7会議室

出席者（敬称略）：

会長 尾山 基, 平田竹男

理事長 井上智治

理事 池田 弘（代理：佐藤雄太郎）、児玉ゆう子、高橋義雄、武内紀子、中村好男、松尾哲矢、間野義之、三木谷浩史（代理：伊藤 洋）、水野明人（代理：村田一雄）、水野利昭、渡邊一利

監事 栗山貴行、得田進介

オブザーバー：

2024年度収支予算書は承認された。

議題7)「スポーツ産業学入門」の出版について

井上理事長の指名により、資料に基づき、中村理事（運営委員長）から「スポーツ産業学入門」の出版が日本スポーツ産業学会編として晃洋書房から出版することが提案され、承認された。

議題8)「スポーツ産業学研究」投稿規定の改定について

井上理事長の指名により、資料に基づき、児玉理事（編集委員会委員長）から「スポーツ産業学研究」投稿規定の改定が提案され、承認された。

議題9) 第34回大会（2025年）の開催について

井上理事長の指名により、高橋理事（大会委員長）より次回第34回学会大会が2025年度7月頃にびわこ成蹊スポーツ大学で開催する案が提案され、承認された。

議題10) その他

総会にて令和5年度学会賞1点、奨励賞1点の授与式が行われることが確認された。

来年2月11日（火・祝）の冬季学術集会の開催校が福山平成大学であること、次回理事会も同時に開催されることが確認された。

井上理事長より理事長の退任が提案され承認された。次回理事会にて新理事長を承認する手続きの前に、新しい理事長の選定を今回の理事会で行い、総会に提案することが認められた。平田会長より新しい理事長として藤沢久美氏が提案され、全会一致で承認・選任された。また、副理事長として中村好男理事が提案され承認された。

井上理事長の閉会宣言により理事会を終了した。

以上

第34回総会報告

日本スポーツ産業学会第34回総会は、2024年7月6日(土)17時50分より東洋大学赤羽台キャンパス WELL-B5階 20502教室にて開催された。

1. 総会の出席者

第34回総会は、正会員48人の出席（開会時）、26人の委任状により成立した。

2. 議事の運営

総会は、高橋理事（運営委員会大会委員長）の開会宣言および司会で開催され、尾山基会長ならびに平田竹男会長の挨拶がなされた。議長には正会員から東原文郎会員が推挙され、議事が勧められた。議案及び審議概略は以下の通りである。

3. 議題

1) 2023年度事業報告

議長の指名により、中村理事（運営委員長）より資料1に基づき2023年度事業についての説明がなされ承認された。

2) 2023年度収支決算書

議長の指名により、中村理事（運営委員長）より、資料2に基づき2023年度収支決算についての説明がなされ、続いて監事より会計及び業務の監査報告がなされ、承認された。

3) 2024年度事業計画

4) 2024年度収支予算書

2024年度事業計画と2024年度収支予算書が一括審議された。議長の指名により、中村理事（運営委員長）より、資料3と資料4に基づき2024年度事業計画と2024年度収支予算書の説明がなされ、承認された。

5) 「スポーツ産業学入門」の出版について

議長の指名により、中村理事（運営委員長）より、資料5に基づき「スポーツ産業学入門」を晃洋書房から出版することが提案され承認された。

6) 「スポーツ産業学研究」投稿規程の改訂について

議長の指名により、資料6に基づき児玉理事（編集委員会委員長）より、研究倫理に関する事項の追加と引用の記述、参考文献リスト作成に関する事項に関する改定が提案され、承認された。

7) 第34回大会(2025年)の開催について
議長の指名により、高橋理事(大会委員長)よりびわこ成蹊スポーツ大学で開催されることが提案され、承認された。続いて大会実行委員長の大阪成蹊大学の菅先生より挨拶がなされた。

8) 理事の追加について、次期運営委員会体制について

議長の指名により、資料7に基づき中村理事(運営委員長)より4名を理事に追加選任することが提案され、承認された。次期運営委員会体制につ

いては、資料8に基づき間野理事を運営委員長とする体制が提案され承認された。

9) その他

井上理事長の退任が提案され承認された。新理事長が藤沢久美(新理事)、副理事長に中村理事が就任する予定であることが報告された。

議長の閉会宣言により、総会は閉会した。

以上

(資料-1)

2023年度事業報告

2023年度の実施事業は以下の通りである。

1. 学会組織の整備・充実・運営に関する事業

(1)会議の開催

- 第33回総会を開催した(2023年7月22日、於・山梨学院大学)。
- 第68回理事会を開催した(2023年7月22日、於・山梨学院大学:ハイブリッド開催)。
- 第69回理事会を開催した(2024年2月17日、於・大阪経済大学)。
- 運営委員会を2回開催した(2023年6月28日、2024年1月29日、於・オンライン)。

(2)事務局機能の整備・充実

- ウェブサイト(<https://spo-sun.gr.jp/>)を活用した情報発信を行った。
- 会員管理システムの運用を継続中。

(3)会員の維持・拡充

- 会員数(2024年3月31日現在)は以下の通りであった。
 - ▷正会員567人(前年度比5人減)
 - ▷学生会員104人(前年度比12人減)
 - ▷法人会員10団体(前年度比3団体減)
(株)梓設計、アビスパ福岡(株)、岩崎電気(株)、コトブキシーティング(株)、(株)ジャパン・スポーツ・マーケティング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)トーガシ、ブリッド(株)、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)

【退会】

SCSK Minoriソリューションズ(株)、(株)東京アスレティッククラブ、ヒューマンアカデミー(株)

▷賛助会員14団体(前年度比1団体減)

(株)アシックス、(株)井上ビジネスコンサルタント、(株)コングレ、(株)CyberZ、公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会、セノー(株)、(株)デサント、(株)電通、一般社団法人日本スポーツ用品工業協会、ホクエツ印刷(株)、ミズノ(株)、(株)横浜国際ゴルフ倶楽部、楽天グループ(株)、(株)WOWOW

【退会】

(株)サニーサイドアップ

2. 出版事業

(1)学会誌

- 学会誌『スポーツ産業学研究』を以下の通り発行した。
 - ▷第33巻第2号(2023年4月1日;原著論文2編,研究ノート3編,スポーツ政策学生会議(SPJ)2022受賞論文4編)
 - ▷第33巻第3号(2023年7月1日;原著論文2編,研究ノート1編,スポーツ政策学生会議(SPJ)2022受賞論文1編)
 - ▷第33巻第4号(2023年10月1日;原著論文3編,研究ノート1編,スポーツ関連大学の入試情報一覧(2023年度))
 - ▷第34巻第1号(2024年1月1日;フォーラム1編,原著論文3編,書評1編,第32回大会

アイデアコンペ入選論文2編, 第32回大会アイデアコンペポスター発表論文4編)

- 学会誌『スポーツ産業学研究』(第33巻第2号～第4号, 第34巻第1号)の掲載論文を科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)にて公開した。

(2)学会ニュース

- 『学会ニュース』No.125からNo.128を, それぞれ学会誌第33巻第2号から第34巻第1号と合本して発行し, さらにウェブサイトに掲載した。

(3)情報誌

- 情報誌『Sports Business & Management Review』を以下の通り発行した。
 - ▷第26号(2023年4月1日)
 - ▷第27号(2023年7月1日)
 - ▷第28号(2023年10月1日)
 - ▷第29号(2024年1月1日)
- 情報誌『Sports Business & Management Review』の版面を学会ホームページに掲載した。

(4)Webジャーナル

- Webジャーナル『Sports Business Online』を刊行した。

3. 学会大会の開催

(1)学会大会

- 第32回大会(2023年7月22日(土)～23日(日), 会場・山梨学院大学, 実行委員長・小山さなえ教授)を開催した。

参加申込者数: 173人(うち有料参加者119人[正会員68人, 学生会員27人, 非会員一般10人, 非会員学生14人])

▷メインテーマ「地方におけるスポーツエンジン～アウトドアスポーツの可能性～」

▷基調講演「山梨県のスポーツ産業を活かした地方創生」

長崎幸太郎氏(山梨県知事)

▷実行委員会企画シンポジウム「トップスポーツのエンジンとしての可能性: スポーツを通じた地域振興に向けて」

<パネリスト>

高原幸次氏(株式会社ヴァンフォーレ山梨ス

ポーツクラブ取締役営業統括部長)

逆瀬川慶浩氏(一般社団法人山梨クィーンビーズ部長兼GM)

今中大介氏(株式会社インターマックス代表取締役)

<コーディネーター>

関根正敏氏(中央大学商学部准教授)

小山さなえ氏(山梨学院大学スポーツ科学部教授/大会実行委員長)

▷尾山 基会長 旭日中綬章受章記念講演「世界のスポーツ産業の潮流と日本のスポーツ産業の今後」

尾山 基氏(日本スポーツ産業学会会長/株式会社アシックス取締役会長)

<司会>

中村好男氏(日本スポーツ産業学会理事・運営委員長/早稲田大学スポーツ科学学術院教授)

▷本部企画シンポジウム「スポーツ成長産業を目指す「やまなしスポーツエンジン」の可能性」

<パネリスト>

落合直樹氏(山梨県観光文化・スポーツ部長/やまなしスポーツエンジン会長)

五十嵐雅彦氏(FCふじざくら山梨GM)

古屋光司氏(学校法人C2C Global Education Japan理事長/やまなしスポーツエンジン副会長)

<指定討論者>

平田竹男氏(日本スポーツ産業学会会長/早稲田大学スポーツ科学学術院教授)

<コーディネーター>

高橋義雄氏(日本スポーツ産業学会理事・運営副委員長・大会委員長/筑波大学体育系准教授)

▷アイデアコンペ

○スポーツ庁長官賞

「規格外野菜×スポーツ×地域活性化プロジェクトの提案: プロスポーツの飲食を規格外野菜で」

福山大学経済学部経済学科 藤本倫史ゼミ

○日本スポーツ産業学会会長賞

「推し活×スポーツ×名産品開発=地域創生」

龍谷大学経営学部スポーツサイエンスコース 松永敬子研究室
土谷朋葉 末久まどか 飯田奈々 松永敬子 (代表)

○長野県知事賞

「やまなしの資源を活用したアウトドアツーリズムの循環プラットフォーム「Gateway Cruise Club Project」

株式会社アミューズ スポーツ&アドベンチャー事業部

「推し活×スポーツ×名産品開発=地域創生」

龍谷大学経営学部スポーツサイエンスコース 松永敬子研究室

土谷朋葉 末久まどか 飯田奈々 松永敬子 (代表)

(2)冬季学術集会

- ・第11回冬季学術集会 (2024年2月17日(土), 於・大阪経済大学 実行委員長 田島良輝教授) を開催した。

参加者数: 97人

▷シンポジウム

「AIを活用したスポーツ産業界のDX」

◎開会・司会

菅 文彦 (大阪成蹊大学 経営学部スポーツマネジメント学科 学科長 教授)

◎パネルディスカッション

<パネリスト>

山本康正氏 (京都大学経営管理大学院 客員教授/ベンチャー投資家/東京財団主席研究員 ほか)

木下真吾氏 (日本電信電話株式会社/NTT 執行役員 研究開発マーケティング本部 研究企画部門長)

中島英太郎氏 (オリックス野球クラブ株式会社 MD企画グループ グループ長)

<ファシリテーター>

菅 文彦 (大阪成蹊大学 経営学部スポーツマネジメント学科 学科長 教授)

▷ランチタイム企画

「eスポーツの可能性を学び、実際に体験してみませんか!？」

▷リサーチ・カンファレンス2024 (研究発表数:

31題)

日本スポーツ産業学会賞 (若手研究者育成セッション: 大学院生)

◎川上和真 (同志社大学大学院 商学研究科 (博士後期課程))

「日本女子サッカー・リーグにおける顧客満足度の因果関係に関する考察」

○奨励賞 小松友哉 (鹿屋体育大学大学院体育学研究科)

「フルコンタクト空手道観戦者における観戦動機と行動意図との関連性

—スポーツ種目経験の有無に着目して—

笹川スポーツ財団賞 (卒論セッション: 学部4年生)

◎小林優友 (びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部)

「ノスタルジアが満足度や再観戦意図に与える影響

—京都サンガF.C.のホーム観戦者に着用して—

○奨励賞 倉本理央 (福山平成大学福祉健康学部)

「ラグビー日本代表の多様な出自に関するインターネットコメントの分析

—ラグビーW杯2019年大会と2023年大会との比較—

笹川スポーツ財団賞 (ジュニアセッション: 学部1~3年生)

◎久々湊 巧, 福田竜也 (金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科)

「Future Challenge Project2023

—誰もが共に暮らし続けられるまちづくりを目指し「挑戦」する活動—

○奨励賞 呉 績坤 (帝京大学経済学部)

「参加型スポンサーシップイベントの紐帯効果に関する

—考察— Nike Campus Athletesの活動事例より—

4. セミナー等の開催

(1)スポーツ産業アカデミー

- ・スポーツ産業アカデミーを11回開催 (オンライン) した。

▷「テクノロジーによるスポーツの拡張」

- 開催日：2023年4月11日(火)
 登壇者：木下真吾氏 (NTT人間情報研究所 所長)
 参加者数：34人/参加申込者数：42人
- ▷ 「eスポーツにおける法的観点と選手たちの「働き方」や「サービスの提供」について」
 開催日：2023年5月9日(火)
 登壇者：成原 慧氏 (九州大学大学院法学研究院)
 新屋敷恵美子氏 (九州大学大学院法学研究院)
 藤村明子氏 (NTT社会情報研究所)
 参加者数：21人/参加申込者数：15人
- ▷ 「リアルスポーツとeSportsを取り巻く環境」
 開催日：2023年7月11日(火)
 登壇者：杉本龍勇 (法政大学 経済学部教授)
 参加者数：26人/参加申込者数：30人
- ▷ 「カーリング科学におけるAIアプローチとは」
 開催日：2023年8月8日(火)
 登壇者：山本雅人氏 (北海道大学大学院情報科学研究科教授)
 参加者数：11人/参加申込者数：16人
- ▷ 「“音で叶える、あなたと叶える”音響ブランドnwm (ヌーム) が広げるスポーツの可能性」
 開催日：2023年9月12日(火)
 登壇者：坂井 博氏 (NTTツノリティ株式会社 代表取締役社長)
 参加者数：13人/参加申込者数：17人
- ▷ 「デフスポーツとテクノロジー：デフスポーツの今、そして展望」
 開催日：2023年10月10日(火)
 登壇者：設楽明寿氏 (筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程)
 参加者数：15人/参加申込者数：12人
- ▷ 「徳島における「eスポーツ」の現在地」
 開催日：2023年11月14日(火)
 登壇者：加藤貴弘氏 (徳島eスポーツ協会 エグゼクティブアドバイザー / 徳島県 国保地域共生課長)
 参加者数：11人/参加申込者数：19人
- ▷ 「“eスポーツと私の出会い、そしてこれから”」
 開催日：2023年12月12日(火)
 登壇者：前田雅尚氏 (株式会社サードウェーブ取締役 最高eスポーツ責任者 (CeSO) 常務執行役員/株式会社E5esportsWorks代表取締役社長/特定非営利活動法人ナセフジャパン理事)
 参加者数：15人/参加申込者数：20人
- ▷ 「「eスポーツ×若者」を基点としたコミュニティ交流の創出・まちづくり」
 開催日：2024年1月9日(火)
 登壇者：原田元晴氏 (株式会社NTTeSports代表取締役社長)
 参加者数：25人/参加申込者数：31人
- ▷ 「eスポーツと教育の親和性について」
 開催日：2024年2月13日(火)
 登壇者：橋本太郎氏 (ブロードメディア株式会社代表取締役社長/ルネサンス高校グループ代表/金沢工業大学客員教授・コンテンツ&テクノロジー融合研究所担当)
 参加者数：38人/参加申込者数：24人
- ▷ 「NTTが進めるIOWN構想とスポーツ分野への活用」
 開催日：2024年3月12日(火)
 登壇者：滝川大介氏 (東日本電信電話株式会社 ビジネス開発本部 担当部長)
 参加者数：24人/参加申込者数：25人
- (2)スポーツビジネスジャパン
- 4年ぶりに対面形式にて「スポーツビジネスジャパンコンファレンス2023」を11月27日(月)に開催した。
 キーワード：スポーツ×まちづくり
 参加者数：167名 (オンライン含め457名)
- (3)スポーツ政策学生会議 (SPJ) 2023
- Sport Policy for Japan 2023 (2023年10月28日(土) (於：明治大学和泉キャンパス)・29日(日) (於：明治大学駿河台キャンパス) を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。

参加チーム数：61（うちオンライン参加：2、ハイブリッド参加：1）
参加大学数：24（うちオンライン参加：1、ハイブリッド参加：1）
参加学生数：314

•受賞結果

○最優秀賞（スポーツ庁長官賞）

立教大学 松尾ゼミチームB「聴者と聴覚障がい者の架け橋プロジェクト：『手話エク』でコミュニケーションの壁を越えて」

○優秀賞

明治大学 澤井研究室D班（スポーツと民主主義）「スタジアムに投票所をー若者の投票率を上げるために」

東海大学 秋吉ゼミ「子どもの貧困を救え！：スポーツで新たな居場所づくりを」

一橋大学 岡本ゼミチームP「『ウェルスポ交流会』の提言：不登校児童生徒の社会的自立を支援するために」

亜細亜大学 石黒ゼミA「『スポファミ』プロジェクト：アスリートの競技と育児の両立を目指して」

亜細亜大学 石黒ゼミC「地域スポーツの現状を学生の力によって変える！：『する・みる・ささえる スポサポ！』」

明治大学 後藤ゼミA「スポーツを通じたオーバーツーリズム対策と観光振興による地域活性化：魅力沢山・白山・分散プラン」

一橋大学 岡本ゼミ チームS「スポーツを用いた子どもたちの居場所づくり：オンライン・対面併用イベント『ジモート・スポーツ・コンテスト』」

○笹川スポーツ財団賞

一橋大学 岡本ゼミチームM「ウォーキングツーリズム×物語」で地域活性化：地域への愛着形成と再訪を目指して～」

○FORUM8デジタル賞

神奈川大学 大竹ゼミナールチームC「宇宙×スポーツ：宇宙産業の発展に向けて」

○協栄賞

びわこ成蹊スポーツ大学 明ゼミSPJチーム～TEN～「こどもに運動習慣を根付かせるために：Jクラブのホームタウン活動を活用して」

○PwCコンサルティング賞

中央大学 フォレゲの民よ「ホームのスタジアム運営において生起する感謝感情の効果に関する実証的研究：サッカークラブの組織成員を調査対象として」

○特別賞

亜細亜大学 石黒ゼミBチーム「スポーツチームにおけるボランティアのあらゆる形での『報酬』：有形の報酬と無形の『報酬』」

東海大学 大津ゼミ「スポーツ競技団体の変革を目指して：情報共有アプリを活用した『意識×行動』への行動変容」

山口大学 西尾ゼミCチーム「ウォークラリーで水害からの安全確保を」

立命館大学 Beyond Borders「『スポーツ情報』×『Access! Learn! Exploit!』：学生アスリートの競技パフォーマンスの向上に向けて」

一橋大学 岡本ゼミチームG「Dance Unites Us All：障害者スポーツ施設による障碍児向けダンス教室の定期開催」

帝京大学 大山ゼミ「もしスポーツ少年団の指導者たちがマルチスポーツの組織づくりをやってみたら：“異種競技チーム関係者たちの横断型組織”がもたらしたベネフィットとは」

山口大学 西尾ゼミチームB「足湯で広がるコミュニティ：誰もが行きたくなる世界に1つだけのスタジアム」

東洋大学 山下ゼミチームB「スポーツを通じた仕事体験：外国にルーツをもつ子どもたちの学習意欲向上を目指して」

•学生投票結果

第1位 立教大学 松尾ゼミチームB「聴者と聴覚障がい者の架け橋プロジェクト：『手話エク』でコミュニケーションの壁を越えて」

第2位 東海大学 秋吉ゼミ「子どもの貧困を救え！：スポーツで新たな居場所づくりを」

第3位 明治大学 澤井研究室D班「スタジアムに投票所を：若者の投票率を上げるために」

(4)専門分科会

- スポーツ産業史専門分科会に補助した（前年度未払い分は2023年4月21日に、今年度分は9月12日に振込）。
- 運営委員会にて、専門分科会のあり方や2025年度以降の分科会補助制度の継続の有無について検討した。

5. 表彰事業

- 第33回総会（山梨学院大学：2023年7月22日）後に同会場で学会賞授与式を行った。

○奨励賞論文（副賞5万円）

「日本における国際的なスポーツ人材育成のための海外短期研修の開発に関する事例的研究：3大学の事例を比較して」（第32巻第1号掲載，研究ノート）

塚本拓也（仙台大学）

大山 高（帝京大学）

松尾博一（筑波大学）共著

「日本ラグビーフットボール選手会によるPlayer Development Programの実践報告」（第32巻第4号掲載，研究ノート）

川村 慎（日本ラグビーフットボール選手会）

堀口雅則（日本ラグビーフットボール選手会）

小沼健太郎（日本ラグビーフットボール選手会）

山下慎一（福岡大学）

小塩靖崇（国立精神・神経医療研究センター）共著

- 次年度第34回総会後に授与が予定されている学会賞の候補論文を選考した。

6. その他

- スポーツ産業教育推進プロジェクト推進委員会を12回開催した。

(資料-2)

2023年度収支決算報告書

(2024年3月31日現在)

(収入の部)

(単位：円)

科 目	予 算 額	実 績	実績-予算
1. 入会金収入	90,000	81,000	△9,000
a. 入会金収入	90,000	81,000	△9,000
2. 会費収入	7,140,000	7,186,000	46,000
a. 正会員会費収入	3,700,000	3,970,000	270,000
b. 学生会員会費収入	140,000	216,000	76,000
c. 法人会員会費収入	700,000	500,000	△200,000
d. 賛助会員会費収入	2,600,000	2,500,000	△100,000
3. 寄付金・補助金収入	0	50,000	50,000
a. 寄付金・補助金収入	0	50,000	50,000
4. 販売品収入	1,930,000	1,532,800	△397,200
a. 掲載料・論文抜き刷り代金	1,800,000	1,388,800	△411,200
b. 図書等販売収入	130,000	144,000	14,000
5. 学会大会収入	1,675,000	1,238,000	△437,000
a. 参加費収入	905,000	734,000	△171,000
b. 協賛金収入	300,000	200,000	△100,000
c. 懇親会費収入	320,000	254,000	△66,000
d. その他	150,000	50,000	△100,000
6. 冬季学術集会収入	100,000	93,000	△7,000
a. 参加費収入	0	0	0
b. リサーチ・カンファレンス協賛金収入	100,000	93,000	△7,000
7. 事業収入	1,080,000	2,688,000	1,608,000
a. セミナー事業収入	100,000	70,000	△30,000
b. Sport Policy for Japan事業収入	980,000	2,618,000	1,638,000
c. その他	0	0	0
8. 雑収入	100	110	10
a. 預金利息	100	110	10
b. 雑収入	0	0	0
当 期 収 入 合 計	12,015,100	12,868,910	853,810

注1

(支出の部)

(単位:円)

科 目		予 算 額	実 績	実績-予算
1. 学会組織の整備拡充費		1,040,000	1,351,142	311,142
a.	理事会会議費	40,000	95,190	55,190
b.	運営委員会会議費	50,000	0	△50,000
c.	システム関連費	950,000	1,255,952	305,952
d.	広報活動費	0	0	0
2. 出版事業費		5,850,000	5,203,584	△646,416
a.	学会誌印刷・製本費	3,800,000	2,772,423	△1,027,577
b.	学会誌編集費	400,000	194,487	△205,513
c.	情報誌製作費	1,200,000	1,708,620	508,620
d.	発送費	450,000	528,054	78,054
3. 学会大会開催費		1,675,000	1,653,813	△21,187
a.	会場費	150,000	0	△150,000
b.	懇親会費	545,000	209,424	△335,576
c.	印刷費	250,000	542,300	292,300
d.	講師関係費	200,000	245,514	45,514
e.	外国人講師関係費	0	0	0
f.	実行委員会関係費	0	15,633	15,633
g.	事務局費	500,000	640,942	140,942
h.	予備費	30,000	0	△30,000
4. 冬季学術集会開催費		480,000	528,206	48,206
a.	会場費	100,000	0	△100,000
b.	昼食会費	50,000	34,020	△15,980
c.	印刷費	100,000	122,606	22,606
d.	事務局経費	100,000	149,495	49,495
e.	事業費	130,000	222,085	92,085
5. 事業費		1,442,192	2,660,338	1,218,146
a.	セミナー事業費	50,000	55,799	5,799
b.	カンファレンス事業費	50,000	0	△50,000
c.	専門分科会事業費	20,000	40,000	20,000
d.	Sport Policy for Japan事業費	1,272,192	2,564,539	1,292,347
e.	その他事業費	50,000	0	△50,000
6. 国際交流事業費		0	0	0
a.	海外研究者招聘費	0	0	0
7. 表彰事業費		120,000	108,800	△11,200
a.	学会賞表彰事業費	120,000	108,800	△11,200
8. 事務局管理費		4,130,000	3,974,183	△155,817
a.	交通費	200,000	105,044	△94,956
b.	消耗品費	200,000	118,287	△81,713
c.	通信費	300,000	139,050	△160,950
d.	人件費	3,400,000	3,587,960	187,960
e.	雑費	30,000	23,842	△6,158
9. 予備費		0	0	0
a.	予備費	0	0	0
b.	特別プロジェクト研究費	0	0	0
当期支出合計		14,737,192	15,480,066	742,874
当期収支差額		△2,722,092	△2,611,156	110,936
前期繰越金			14,492,809	
次期繰越金			11,881,653	

注 2

注 1) 翌期の大会参加費7,000円が含まれている。

注 2) 前期の未払い分 (20,000円) と今期の支払い分 (20,000円) を計上。

(資料－3)

2024年度事業計画

1. 学会組織の整備・充実・運営

(1)会議の開催

- 総会（第34回）
- 理事会（第70回・第71回）
- 運営委員会（2～3回の予定）

(2)学会の広報

- ウェブサイト（<https://spo-sun.gr.jp/>）の活用・充実
- 展示会等への出展
- その他の広報活動

(3)事務機能の強化

- システムの更新
〔参考〕正会員567人，学生会員104人，法人会員10団体，賛助会員14団体
(2024年3月末現在)

2. 機関誌，会報等の発行

(1)学会誌の発行

- 『スポーツ産業学研究』（第34巻第2～第4号，第35巻第1号）
- 『スポーツ産業学研究』掲載論文を「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)にて公開
(第34巻第2～第4号，第35巻第1号)

(2)情報誌の発行

- 『Sports Business & Management Review』（No.30～No.33）

(3)Webジャーナルの発行

- 『Sports Business Online』

3. 学会大会の開催

(1)学会大会

- 第33回学会大会（2024年7月6日(土)～7日(日)東洋大学赤羽台キャンパス）

(2)冬季学術集会

- 第12回冬季学術集会（2025年2月11日（火・祝）学校法人福山大学社会連携推進センター
実行委員長：福山平成大学 福祉健康学部
健康スポーツ科学科 河野 洋 先生）

4. 研究会，講演会，公開講座等の開催

- (1)スポーツ産業学セミナーの開催
- (2)スポーツ産業アカデミーの開催
- (3)スポーツキャリアサポート研究会の開催
- (4)スポーツビジネスジャパンの開催
- (5)スポーツ政策学生会議（SPJ）の開催
- (6)スタジアム・アリーナ視察ツアー事業の開催
- (7)専門分科会への補助
- (8)その他事業

5. 表彰事業

- 学会賞の表彰
- 学会賞候補論文の選考

6. その他

- 「スポーツ産業学入門」の刊行
- 企画出版事業の実施
- 産学連携事業の推進
- 他団体主催イベントへの後援・協力

(資料-4)

2024年度収支予算書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

(収入の部)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額
1. 入会金収入	90,000	90,000	0
a. 入会金収入	90,000	90,000	0
2. 会費収入	7,140,000	7,140,000	0
a. 正会員会費収入	3,700,000	3,700,000	0
b. 学生会員会費収入	140,000	140,000	0
c. 法人会員会費収入	700,000	700,000	0
d. 賛助会員会費収入	2,600,000	2,600,000	0
3. 寄付金・補助金収入	0	0	0
a. 寄付金・補助金収入	0	0	0
4. 販売品収入	1,930,000	1,930,000	0
a. 掲載料・論文抜き刷り代金	1,800,000	1,800,000	0
b. 図書等販売収入	130,000	130,000	0
5. 学会大会収入	1,600,000	1,675,000	△75,000
a. 参加費収入	900,000	905,000	△5,000
b. 協賛金収入	300,000	300,000	0
c. 懇親会費収入	300,000	320,000	△20,000
d. その他	100,000	150,000	△50,000
6. 冬季学術集会収入	100,000	100,000	0
a. 参加費収入	0	0	0
d. リサーチ・カンファレンス協賛金収入	100,000	100,000	0
7. 事業収入	2,580,000	1,080,000	1,500,000
a. セミナー事業収入	100,000	100,000	0
b. Sport Policy for Japan事業収入	2,240,000	980,000	1,260,000
c. その他	240,000	0	240,000
8. 雑収入	100	100	0
a. 預金利息	100	100	0
b. 雑収入	0	0	0
収 入 合 計	13,440,100	12,015,100	1,425,000

(支出の部)

(単位:円)

科 目		予 算 額	前年度予算額	差 額
1. 学会組織の整備拡充費		1,040,000	1,040,000	0
a.	理事会会議費	40,000	40,000	0
b.	運営委員会会議費	50,000	50,000	0
c.	システム関連費	950,000	950,000	0
d.	広報活動費	0	0	0
2. 出版事業費		6,150,000	5,850,000	300,000
a.	学会誌印刷・製本費	3,800,000	3,800,000	0
b.	学会誌編集費	400,000	400,000	0
c.	情報誌製作費	1,200,000	1,200,000	0
d.	発送費	750,000	450,000	300,000
3. 学会大会開催費		1,610,000	1,675,000	△65,000
a.	会場費	150,000	150,000	0
b.	懇親会費	300,000	545,000	△245,000
c.	印刷費	400,000	250,000	150,000
d.	講師関係費	200,000	200,000	0
e.	外国人講師関係費	0	0	0
f.	事業費	30,000	0	30,000
g.	事務局費	500,000	500,000	0
h.	予備費	30,000	30,000	0
4. 冬季学術集会開催費		510,000	480,000	30,000
a.	会場費	100,000	100,000	0
b.	昼食会費	50,000	50,000	0
c.	印刷費	100,000	100,000	0
d.	事務局経費	100,000	100,000	0
e.	事業費	160,000	130,000	30,000
5. 事業費		3,186,133	1,442,192	1,743,941
a.	セミナー事業費	50,000	50,000	0
b.	カンファレンス事業費	50,000	50,000	0
c.	専門分科会事業費	20,000	20,000	0
d.	Sport Policy for Japan事業費	2,626,133	1,272,192	1,353,941
e.	その他事業費	440,000	50,000	390,000
6. 国際交流事業費		0	0	0
a.	海外研究者招聘費	0	0	0
7. 表彰事業費		120,000	120,000	0
a.	学会賞表彰事業費	120,000	120,000	0
8. 事務局費 (管理費)		4,130,000	4,130,000	0
a.	交通費	200,000	200,000	0
b.	消耗品費	200,000	200,000	0
c.	通信費	300,000	300,000	0
d.	人件費	3,400,000	3,400,000	0
e.	雑費	30,000	30,000	0
9. 予備費		0	0	0
a.	予備費	0	0	0
b.	特別プロジェクト研究費	0	0	0
支 出 合 計		16,746,133	14,737,192	2,008,941
収 支 差 額		△3,306,033	△2,722,092	△583,941

(資料-5)

「スポーツ産業学入門」の出版について

スポーツ産業に興味を持つ大学生を対象として学習を進める上での羅針盤と方向性を与えることを目的として、以下の書籍を刊行する

日本スポーツ産業学会編（「スポーツ産業学入門」編集委員会）

出版社：晃洋書房

サイズ：A5判・200～250ページ

価格：未定

目次：

はじめに

- 第一章 いまなぜスポーツ産業か？
- 第二章 スポーツ産業とは（スポーツとスポーツ産業）
- 第三章 スポーツ産業学とは
- 第四章 スポーツ産業のひろがり
- 第五章 スポーツ用具・用品産業の概要
- 第六章 スポーツ施設（スポーツ空間の変容）
- 第七章 スポーツ産業に欠かせない「権利」の話

第八章 プロスポーツ興行における権利ビジネス

第九章 スポーツの仕事

第十章 スポーツ産業学の論点

第十一章 産業化以前のスポーツ環境とスポーツ産業の役割

第十二章 スポーツ産業の意義～社会課題解決とスポーツ産業～

第十三章 おわりに～これからのすべてのスポーツは産業化せざるを得ない

備考：

- 1) 編集委員会：教育推進プロジェクトのメンバーを中心に構成
- 2) 印税：初刷はなし。2刷り以降出版社から提供された場合は日本スポーツ産業学会の収入とする
- 3) 刊行予定：2025年3月

以上

(資料-6)

「スポーツ産業学研究」投稿規定の改定について

編集委員会 委員長 児玉ゆう子

1) 研究倫理に関する事項の追加

投稿規定 (<https://spo-sun.gr.jp/publication/format>) の2. 投稿の条件に「研究倫理」, 「利益相反」(次ページ, 赤字部分) を付け加えることを提案します。

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が示され、その指針に基づいた研究実施が求められています。この指針の範囲に含まれる研究内容(例えば「人を対象として、健康に関する様々な事象の頻度及び分布並びにそれらに影響を与える要因の理解を目的に実施される研究」)においては、所属機関等での倫理審査を経る必要があると示されていること、さらに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指

針」の範囲外の研究においても研究のあらゆる段階で倫理的配慮がある、倫理的妥当性の高い研究を行うことが社会から求められています。学会誌の公表もこの過程に一部であることから、研究倫理に関する項目の追加を提案します。

研究に関する利益相反についても、研究の公正性、信頼性を確保する上で適正に対処し、社会への説明責任を果たすことが求められています。研究成果の社会還元につながる内容を多く扱う研究分野でもあることから、研究の利益相反の申告についても積極的に取り組むべきと考え、提案します。

2) 引用 の記述, リスト作成に関する事項

引用の記載に関する事項が他誌にくらべて、あいまいな部分、WEB上の表記が不統一なところがあり、刊行紙面も不統一な部分があったことから、以下のように、これまでの内容を踏襲しつつ、改定することを提案します。

なお、改定は、これまでの内容を踏襲しながら、APAスタイル(本文内での表記とリストの表記)、バンクーバースタイル(引用順に連番をふる、引用順にリストを作成する)シカゴスタイル(WEB上の情報に参照日を記載する)を参考に、文中の記載やリストの表記の統一を図りました。

以上、2点の変更の詳細は、次ページ以降に記載しています。

以上

「スポーツ産業学研究」投稿規定 改定の具体的内容

(投稿規定の抜粋、網掛け部分が今回の追加・修正部分です。)

1) 研究倫理に関する事項の追加について

2. 投稿の条件

「原稿」

原稿は、一般に公表(配布または販売)されている刊行物に未投稿のものに限ります。なお、学会大会、講演会、シンポジウム、国際会議等で著者自身が発表した内容を投稿することは妨げません。

「使用言語」

(略)

「投稿者の資格」

(略)

「著作権」

(略)

「原稿受付日」

(略)

「原稿の査読と採否」

(略)

「原稿の責任」

(略)

「投稿料および掲載料」

(略)

「研究倫理」

研究のあらゆる段階で倫理的配慮がなされた研究であること。特に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の範囲に含まれる研究内容の場合には、筆頭著者等の所属する機関等で研究倫理審査を受け、承認されている研究であること。

「利益相反」

投稿内容に関する利益相反がある場合には、具体的内容を記載してください。利益相反の詳細な内容は、日本学術振興会のホームページや所属機関の研究支援部門あるいは法務部門等に相談してください。

4. 原稿の書き方

「提出原稿」

(略)

(3)原稿本文

- 原稿は題目、著者名、所属から書き始めてください。(略)

1.	緒言	1.	はじめに
2.	研究方法	2.	研究方法
2.1	試験装置	2.1	調査方法
2.2	調査対象	2.1.1	調査対象
3.	3.
4.	考察	4.	実践例
5.	結論	5.	まとめ
	(謝辞)		(謝辞)
	利益相反		利益相反
	参考文献		参考文献

- 利益相反は、利益相反がある場合は、その詳細を記載し、ない場合には「本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。」等、ないことを記載してください。
- 式には、通し番号を付け、(略)
- 本文への注釈は(注1)、(注2)と表記し、(略)

2) 引用 の記述, リスト作成に関する事項の修正について

4. 原稿の書き方

「提出原稿」

(3)原稿本文

(前略)

・引用・参考文献の本文中での参照は、下記の例のように上付の半角数字と半角カッコで示してください。著者名を記載する場合は、著者が2名の場合は両名の姓を英文の場合はandで、和文の場合は「・」でつなぎ、3名以上の場合は、筆頭著者以外は英文の場合には et al. 和文の場合は「ら」、と省略して示してください。

(例) …Sports and Goodman¹⁾は、…渡辺・及川²⁾は…特に佐藤ら³⁾により…

…に関する研究はこれまでサッカー⁴⁾、バスケットボール⁵⁾、バレーボール⁶⁻⁸⁾などの球技を中心に…

・引用・参考文献リストは本文の最後に本文中の参照順に一括して記載してください。

リストの作成

・雑誌(学術雑誌, 年報, 紀要など)

著者名, 刊行年, 題目, 雑誌名, 巻数(号数), ページの順とし, 3人以上の著者の場合, 和文は, 筆頭著者氏名+他と略し, 英文の場合は筆頭著者(ファミリーネーム, ファーストネームイニシャル, ミドルネームイニシャル)+et al.で示します。刊行年は刊行年を西暦で示し, () をつける。副題がある場合は和文文献ではダッシュ(-)ではさむ。英文の場合はコロンの(:)の後に続ける。雑誌名は正式名称を略さず記載してください。リスト内の「」や「,」「()」はいずれも半角, その後半角スペースを入れ, つなげてください。

(例)

1) 東京太郎, 日本一郎(1991). スキーの科学的研究, *Journal of Japan Sports Science*. 10(5), 436-441.

2) 鈴木一郎, 千葉健一(1994). 自転車の機械的構造, *スポーツ工学シンポ1994年講演論文集*, 66-70.

3) 大阪一雄, 他(1997). スキー板の強度向上法, *スポーツ産業学研究*. 17(1), 44-52.

4) Hindman, L. C., & Paulsen, R. J. (2024). Racial and gender inequality regimes in sport: occupational segregation and wage gaps in the U.S. spectator sports industry. *European Sport Management Quarterly*, 24(2), 470-490.

5) Baker, B. J., et al. (2022). Remapping the sport brandscape: A structured review and future direction for sport brand research. *Journal of Sport Management*, 36(3), 251-264.

・書籍

著者, 刊行年, 書名, 初版以外は版数, 出版社, 引用ページの順に, 編著書の場合は編集者(Ed/Eds.), 刊行年, タイトル, 出版社の順で, 章ごとに著者が異なり特定の章(ページ)の引用は, 著者名, 刊行年, 章のタイトル, 編集者名(編/Ed/Eds.), 本のタイトル, 出版社, 引用ページ, の順に示す(英文の場合, 本のタイトルの前にInを記す)。

(例)

6) Mullin, B. J., Hardy, S., & Sutton, W. (2014). *Sport marketing 4th edition*. Human Kinetics. 30-31.

7) Zhang, J. J., Pitts, B. G., & Johnson, L. M. (Eds.). *International Sport Business Management: Issues and New Ideas*. Routledge.

8) Beldon Z. (2021). Issues, challenges, and suggestions for youth sports in America: who is really winning. In Zhang, J. J., Pitts, B. G., & Johnson, L. M. (Eds.). *International Sport Business Management: Issues and New Ideas*. Routledge. 91-93.

9) 甲田道子. (2007). スポーツ選手の身体組成. 樋口満(編). *コンディショニングのスポーツ栄養学*. 市村出版. 25-26.

・新聞記事・ウェブ記事の場合

新聞記事などの場合は, 署名記事の場合, 著者名(分からなければ掲載紙(誌)名), 発行年, 題目(見出し), 掲載紙(誌)名, 発行年月日を原則とする。

ウェブサイトの場合は, 著者名, (公開年月日), 題名(見出し), アップロードサイト名, URL, 最終閲覧日(参照/accessed yyyy-mm-dd)の順に記す。

(例)

10) 谷口誠. (2024). ラグビーリーグワン, 18日からプレーオフ 4強が激突. *日本経済新聞*. 2024年5月24日, <https://www.nikkei.com/article/DGX>

ZQODH078ZB0X00C24A5000000/ (参照 2024-5-27)

11) 朝日新聞. (1998年10月10日). ゴルフ用品製造創業期

10) サッカーダイジェストWeb編集部. 「二度と

出会えない存在」現役引退の長谷部誠にフランクフルト指揮官が敬意! 「マコトは絶対的なプロフェッショナル」(2024). サッカーダイジェストWeb. <https://www.soccerdigestweb.com/news/detail/id=154066> (参照 2024-5-22)

(資料-7)

理事の追加について

以下の4名を理事として選任する.

藤沢 久美 (株式会社国際社会経済研究所理事長)

杉本 勇次 (ベインキャピタル日本代表)

芦立 訓 (日本スポーツ振興センター理事長)

次原 悦子 (サニーサイドアップグループ代表取締役社長)

以上

(資料-8)

次期運営委員会体制について

担当	氏名(所属)
運営委員長	間野義之(びわこ成蹊スポーツ大学)
副委員長(大会)	藤本淳也(大阪体育大学)
	(補佐) 遠藤華英(同志社大学)
副委員長(総務)	中村郁博(東洋大学)
	(補佐) 藤岡成美(法政大学)
スポーツ政策学生会議(SPJ)担当	石黒えみ(亜細亜大学)
	波多野圭吾(国土舘大学)
	丸 朋子(大阪成蹊大学)
	古川拓也(大阪成蹊大学)
スポーツビジネスジャパン(SBJ)担当	藤沢久美(株式会社国際社会経済研究所)
	田中弘一(株式会社コングレ)
	吉倉秀和(びわこ成蹊スポーツ大学)
SBMR誌&スポーツビジネスオンライン(SBO)担当	横田匡俊(日本体育大学)
	庄子博人(同志社大学)
	東原文郎(京都先端科学大学)
	松下尚道(フリーデザイナー)
スタジアム・アリーナ視察ツアー担当	菅 文彦(大阪成蹊大学)
	上林 功(追手門学院大学)
	林 悠太(大阪成蹊大学)
	ミョンセヒ(びわこ成蹊スポーツ大学)
企画出版担当	上田滋夢(追手門学院大学)
	藤本淳也(大阪体育大学)
	石黒えみ(亜細亜大学)
	庄子博人(同志社大学)
編集委員長	児玉ゆう子(兵庫大学)
	(補佐) 舟橋弘晃(中京大学)
	(補佐) 小木曾湧(東洋大学)

スポーツ産業アカデミー開催報告

※日 時：2024年7月9日(火)18:00~19:30

■テーマ：「ファイターズが描く事業戦略～エスコンフィールドを通じた共同想像空間の構築～」

■登壇者：伊藤直也氏(株式会社ファイターズ)

スポーツ&エンターテインメント 執行役員
事業統轄本部コンシューマー統括部
統括部長)

■会 場：Zoomウェビナー

■参加者数：52人/参加申込者数：55人

事務局より

〈シクミネットについて〉

2021年4月より会員管理・入金管理システムであるシクミネット (<https://shikuminet.com/>) を導入して4年目となりました。システム導入・継続にあたり多大なるご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

正会員、学生会員の皆様には以下の内容について当該システム上の「マイページ」よりお手続きをお願いいたします。

- 登録情報の編集
- 年会費の支払い
- 当学会主催イベントへの申し込み、入金

尚、年会費の支払い方法につきましては変更可能ですので、ご都合の良いお支払方法をご選択ください。決済方法はいつでも変更可能ですが、マイページ「ご請求・お支払い情報」で「決済中」となっているご請求がある場合は、このご請求の決済完了後から、変更可能となります。

クレジットカード決済をご選択されている場合、マイページの「ご請求・お支払い情報」ページ中、「お支払い履歴」一覧の一番右にあります「領収書」より、領収書の発行が可能です。こちらをご活用ください。但しこの場合、領収書の発行者が「しゅくみねっと株式会社」になります。学会発行の領収書が必要な場合は事務局までご連絡ください。

まだログインお手続きがお済でない会員の皆様は、早めのお手続きをお願いいたします。本学会の銀行またはゆうちょ口座へ直接お振込みをご希望の方は、事務局までご一報ください。その他ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

- システムに関して：シクミネット info-jssi10023@shikuminet.com
- その他：日本スポーツ産業学会事務局 jssi@spo-sun.gr.jp

〈学会事務局〉

現在事務局はリモートワーク中ですので、お問い合わせ等ございましたら事務局宛 (jssi@spo-sun.gr.jp) にメールでご連絡くださいますようお願いいたします。

〈新会員紹介のお願い〉

日本スポーツ産業学会の会員数は、現在、個人会員が約700名、賛助会員が13団体、法人会員が10団体です。

本学会は、設立理念にもありますように、産業界、学界、官界と幅広い分野から会員を募り学会活動を進めています。学会の趣旨に賛同し、ともに研究を進める仲間を募っています。ご紹介頂ければ幸いです。

- 個人会員：学会HPご入会のご案内 <https://jssi.shikuminet.jp/>
「会員登録申請」よりお手続き願います。
- 法人会員・賛助会員：事務局 (jssi@spo-sun.gr.jp) までご連絡願います。

「スポーツ産業学研究」原稿募集

「スポーツ産業学研究」の原稿を募集します。奮って寄稿されるようご案内致します。

1. 原稿の種類 フォーラム，原著論文（総合研究，理論研究，事例研究，調査研究），研究ノート，書評，アゴラなど。
2. 原稿の採否 編集委員会により投稿分類の妥当性および査読の可否を判定した後に査読委員が選ばれ査読が依頼される。その査読結果をもとに編集委員会は原稿の採否を決定し，その結果を投稿者に通知する。
3. 提出する原稿 メールへの添付ファイル（ワードかPDF，図表はエクセル可）で送付のこと。
4. 論文の送付先 〒202-0021 東京都西東京市東伏見2丁目7番5号
早稲田大学75-2 体育教室棟301号室
早稲田大学スポーツビジネス研究所内
日本スポーツ産業学会編集委員会
5. 執筆方法 「スポーツ産業学研究」投稿規定（学会ホームページ）を参照。

日本スポーツ産業学会 「学会ニュースNo.131」

発行日：2024年10月1日

発行者：日本スポーツ産業学会理事長 藤沢 久美

編集者：児玉ゆう子，中村 好男，磯貝 浩久，元 晶煜
岡 浩一郎，小木曾 湧，梶川 裕矢，越川 茂樹
田中 克昌，萩原 悟一，藤田 康範，藤本 淳也
舟橋 弘晃，金子佐知子（事務局）

事務局：〒202-0021

東京都西東京市東伏見2丁目7番5号
早稲田大学75-2 体育教室棟301号室
早稲田大学スポーツビジネス研究所内
日本スポーツ産業学会事務局

TEL：042-461-1241

E-mail：jssi@spo-sun.gr.jp

<https://spo-sun.gr.jp>